

# 商店街活性化に係る 事例調査研究報告書

簡易版



## \* は じ め に \*

本報告書（簡易版）は、商店街が行っている各種の取組みが商店街や地域の活性化に結びついた事例を取りまとめた「商店街活性化に係る事例調査研究報告書」を一部抜粋して作成しました。

近年、全国における商店街の状況は残念ながら大変厳しく、今後、少子高齢化が更に進展することなどから、このままではその存在すら危ういものになっていくことが懸念されています。

そのような中で、商店街の活性化に取り組む意志がありながら、様々な事情により実現できていない商店街の方々に、いろいろな問題を解決しながら商店街の活性化に資する取組みができるよう、商店街における一つ一つの取組み事例に焦点を当てて本報告書を取りまとめることとしました。

掲載しております各商店街の活性化事例は、経済産業局、自治体、日本商工会議所、全国商工会連合会その他の関係機関のご協力により、情報提供のあった事例について、全国商店街振興組合連合会の研究員が現地調査を行って取組み内容等を各商店街の関係者から聴き取りそれを連合会に設置した「商店街等活性化に係る事例調査委員会」において議論・検討のうえ取りまとめたものです。

本報告書（簡易版）は、収集した事例をその取組み内容で分類した17の項目について、1項目につき1事例を紹介しています。その他の取組みについては、全国商店街振興組合連合会のホームページ（<http://www.syoutengai.or.jp/>）から閲覧することができます。

# Contents 目次

1. コミュニティ施設	● 山口市中市商店街・本町商店街 (山口県山口市)	02
2. 子育て支援	● 籠屋町商店街 (徳島県徳島市)	04
3. 高齢者支援	● 大山町中央商店街 (富山県富山市)	06
4. 新規開業支援、店舗誘致	● 唐人町商店街 (佐賀県佐賀市)	08
5. 個店の活性化	● 伊賀上野地区中心商店街 (三重県伊賀市)	10
6. 地域・商店街ブランド	● 萩市田町商店街 (山口県萩市)	12
7. 特産品、歴史、伝統など	● 弁天通り商店街 (群馬県前橋市)	14
8. コミュニティビジネス	● 八島商店街 (京都府舞鶴市)	16
9. エコロジー活動	● 茅ヶ崎市商店会 (神奈川県茅ヶ崎市)	18
10. 環境・景観整備	● 多賀門前町商店街 (滋賀県犬上郡多賀町)	20
11. 防犯	● 明大前商店街 (東京都世田谷区)	22
12. 商店街内の組織強化	● 上越本町三・四・五丁目商店街 (新潟県上越市)	24
13. 教育機関、NPO等他団体との連携	● 柳原通商店街 (愛知県名古屋市中北区)	26
14. 地域住民等との連携	● 十和田市中央商店街 (青森県十和田市)	28
15. 集客イベント	● おびさんロード商店街 (高知県高知市)	30
16. 販促ツール、インターネット活用	● 泉町二丁目商店街 (茨城県水戸市)	32
17. 各種カード事業	● 長田神社前商店街 (兵庫県神戸市長田区)	34

# 山口市中市商店街・本町商店街



## 商店街の基本データ

- 山口市中市商店街振興組合／本町商店街振興組合
- 山口県山口市中市3-3／山口県山口市本町2-1-4
- 電話:083-925-5011/083-925-0934
- 商店街のタイプ:広域型商店街
- 店舗数:約55店／約23店
- [http://www.axis.or.jp/~akindo/member/yama\\_naka.html](http://www.axis.or.jp/~akindo/member/yama_naka.html)

## 利用した助成金等

平成15～17年度  
経済産業省「コミュニティ施設活用事業」

## 1 実施背景

中市・本町商店街は、山口県の県庁所在地山口市（人口約19万人）の中心に位置している。住民の高齢化が進行しており、商店街は空き店舗の増加や通行量の減少などが問題となっており、商業地として新たな魅力や機能が求められている。

そのような中、平成15年に山口県が、誰もが安心して福祉サービスを利用できることを目指し、「福祉でまちづくり」をテーマに掲げたこともあり、商店街と行政と地域住民のためのまちづくりを目指すNPOが連携して地域コミュニティに係る取組みを行うこととなった。



ほっとさろん西門前「てとと」

## 2 事業概要

### 1. ほっとさろん「まちのえき」

商店街を拠点とした地域への支援、コーディネート、住民主体の街づくりを図ることを目的に、平成15年に中市商店街の東側入り口付近にコミュニティ施設『ほっとさろん「まちのえき」』が設置された。山口市が計画を立案したもので、商店街は空き店舗を提供し、「NPO法人山口せわやきネットワーク」と連携しながら運営にあっている。現在では、主に高齢者・障がい者・地域住民の交流する場として活用されている。

「主な事業」

- ・交流サロン事業
- ・福祉関連の情報提供
- ・健康講座等の開催
- ・タウンモビリティ事業
- ・健康診断事業

と同様に山口市が設置したものである。子育て中の親子が気軽に交流できる場を提供することを目的としている。運営は「NPO法人あっと」が行っている。

「主な事業」

- ・子育て中の親子の交流、情報提供、相談、講習
- ・子育て支援者人材の育成



「まちのえき」手作り講座

### 2. ほっとさろん西門前「てととと」

本町商店街の空き店舗に、母親・乳幼児・児童・障がい児・地域住民のためのコミュニティ施設『ほっとさろん西門前「てととと」』が設置された。「まちのえき」



「てととと」子育て交流風景

## 3 実施効果

「まちのえき」の利用者は平成16年度が11,886人。17年度が14,749人と増加している。「まちのえき」と「てととと」の設置により、今まで商店街を利用したくても

できなかった高齢者や子育て中の親子、子供達が、商店街に足を運んでくれるようになった。

# 「子育てほっとスペースすきっぷ」による取組み

徳島県徳島市

## 籠屋町商店街



### 商店街の基本データ

- 籠屋町商店街振興組合
- 徳島県徳島市籠屋町1-20
- 電話:088-625-6828
- 商店街のタイプ:近隣型商店街
- 店舗数:48店
- <http://kagoyamachi.betoku.jp/>

### 利用した助成金等

平成15年度  
経済産業省「コミュニティ施設活用事業」  
平成15年、16年度 厚生労働省「つどいの広場事業」  
平成17年度 厚生労働省「次世代育成対策交付金」  
平成18年度 国土交通省「まちづくり交付金」

## 1 実施背景

平成7年に集客の核であった百貨店が廃業したことで、徳島市の中心市街地は通行量が減少し、空き店舗が目立ち始めた。さらに、平成13年に大型ショッピングセンターが郊外に出店したことから空き店舗の増加に拍車がかかった。

平成14年に徳島商工会議所が中心になって行ったコンセンサス形成事業において、「中心市街地の現状は、親子が来街し、利用できる環境にないこと」が判明した。この事業に「NPO法人子育て支援ネットワークとくしま」の代表が参加していたことから、子育ての観点から地域づくりを行うことを目的に、実験的に中心市

街地内の籠屋町商店街の空き店舗を活用して親子の交流の場を設けることになった。即席の施設であったが、約600人の利用者があり、好評であったことから、徳島市が親子交流施設「子育てほっとスペースすきっぷ」を設置することになり、同NPOが運営を担うこととなった。



「子育てほっとスペースすきっぷ」

## 2 事業概要

### 1. 「子育てほっとスペースすきっぷ」の施設概要

絵本・おもちゃを備えたプレイスペース、幼児用便器のある親子トイレ、オムツ換えコーナー、授乳室、情報コーナー、相談室などが設置されている。情報コーナーには、NPOのメンバーが集めた子育てに関する情報や、商店街情報、行政情報など様々な案内資料が置かれている。

### 2. 「子育てほっとスペースすきっぷ」の事業内容

同施設の事業内容は、「親子の交流の場の提供」（親子が気軽に集い、遊べる場所の提供）、「子育てに関する悩み相談・情報提供」、「イベント開催」（子育て支

援の講習会として、ベビーマッサージ、歯科講習、パパ講座など多数実施）、「子供一時預かりサービス」（最大3時間まで有料で預かる）などである。なかでもイベントはいつも定員一杯でキャンセル待ちが出る講座も多い。



「施設内にあるイベント情報」

## 3 実施効果

NPOのきめ細やかな子育て支援サービスが評判となり、開設した平成15年度の月平均利用者数は797人、平成18年度は1,140人と増えている。中心市街地に低年齢の子供を抱える主婦層の来街が極端に少なかったことを考えると、この施設の設置効果は大きい。

ただし、商店街内の飲食店は親子連れの利用者を取り込めてきているが、物販店などの利用はまだまだ少ない。商店街での買い物促進が今後の検討課題となる。



「子育てに関する情報提供」

## 高齢者を支援するコミュニティ施設「よってかれ家」を運営

富山県富山市

# 大山町中央商店街



### 商店街の基本データ

- 協同組合大山町中央商店街
- 富山県富山市上滝387-4
- 電話:076-483-1420
- 商店街のタイプ:地域型商店街
- 店舗数:約18店

### 利用した助成金等

平成15～17年度  
経済産業省「コミュニティー施設活用事業」

## 1 実施背景

旧大山町の人口は約12,000人である。富山市の中心部まで約30分と近いため、来街者は年々減少している。また、高齢化も進展していることから、商店街を取り巻く環境は厳しく空き店舗も増加している。現在組合員店舗は、24店舗から18店舗にまで減少している。

このような中、商店街と商工会等が中心となり、平成14年に「大山町商店街活性化事業委員会」を立ち上げ、商店街は地域コミュニティの核であり、人々が集い交流できる賑わいの街でなくてはならないとのコンセンサスを得た。また、地域住民からは交流施設の設置を望む声

が多かった。これを受けて、平成15年に、商店街と地元住民・関係団体と協力しながら、大山町中央商店街の空き店舗を活用したコミュニティ施設「よってかれ家」を設置した。「よってかれや」は富山地方で「寄って下さい」を意味する言葉である。



「よってかれ家」

## 2 事業概要

「よってかれ家」は大山商工会が経済産業省の「コミュニティ施設活用事業」を活用し設置したもので、商店街が空き店舗を提供し、地元住民のボランティアグループ「なかよし会」が運営に協力している。主に高齢者に対する支援事業を行っている。

(よってかれ家の主な事業内容)

- いきいき大山「食祭り」(毎年10月)
- どんとこい夏祭り(毎年8月)
- 手づくり豆腐鍋まつり(毎年2月)
- 映画祭の開催
- 各種体験教室・教養講座・展示会・健康診断・講座の開催(年間150回以上)
- 手づくり豆腐・豆乳石鹸・豆乳ローションの販売(毎月1回)

平成18年度からは県の補助が終了したことから、商店街が中心になり「よって

かれ家サポーターズ」を設立し、家賃を含む経費については会費の積み立てにより負担することとなった。現在、約130名が会員となり施設運営を支えている。



「よってかれ家」の内部

## 3 実施効果

「よってかれ家」には、平成16年4月から平成18年3月までの2年間に31,765人の来場があり、毎日50人以上の住民に利用されている。高齢者の利用が多く、来街者の増加につながっていることから、平成19年度以後も「よってかれ家」の

運営を継続することになっている。今後の施設運営にあたっては、施設利用の有料化や手づくり豆腐、豆乳石鹸、豆乳ローションの開発・販売等、収益事業を加えてより安定した運営に取り組む予定である。

# 独立開業につながるチャレンジショップを目指して

佐賀県佐賀市

## 唐人町商店街



### 商店街の基本データ

- 唐人町商店街振興組合
- 佐賀県佐賀市唐人町2-5-12
- 電話:0952-25-8156
- 商店街のタイプ:地域型商店街
- 店舗数:59商店
- <http://www2.saganet.ne.jp/toj>

### 利用した助成金等

平成16年度  
経済産業省「商店街等活性化事業」  
平成16年以降  
佐賀市「佐賀市チャレンジショップ事業」  
平成17年以降  
佐賀県「商店街空き店舗活用事業」

## 1 実施背景

佐賀市は人口約20万5千人、福岡市へのアクセスがよいこともあって、消費の域外流出が著しい。また、郊外に大型ショッピングセンターが相次いで出店したため、中心市街地の空洞化も深刻であり、空き店舗が増加していた。

そのような状況を踏まえ、集客力のある店舗を誘致することによる“商店街の魅力向上”と“地域におけるコミュニティの場づくり”に取り組むこととした。

その一環として、平成16年に、空きビルをチャレンジショップ「CAST（キャスト）」として改装し、新規開業者の支

援を実施することとなった。同様の事業を過去に行った隣接商店街の「家賃等の優遇支援期間終了後、自力での開業に四苦八苦する出店者が多い」といった反省点を踏まえ、将来商店街での独立開業につながるような仕組みづくりに力を入れた。

また、従来の事業のように商店街振興組合の役員が中心となるのではなく、頑張っている経営者、チャレンジショップを卒業し開業した若手経営者等を中心に「唐人町チャレンジショップ運営部会」を組織し、工夫を凝らした支援策の立案、実施につなげている。

## 2 事業概要

### 商店街の魅力を高めるための 「空き店舗対策事業」

独立意欲のある開業希望者を募り、空き店舗での新規開業を推進する目的で、チャレンジショップ事業を展開。運営部会を中心にアイデアを出し合い、商店街経営の現場にあわせた独自のサポートプログラムを実施している。実施概要は以下の通り。

#### ● 出店者の負担金

負担金は、家賃坪1万円（1店舗当たり4～5万円）と商店会費等である。

#### ● 運営部会の設置

元気な商店主、チャレンジショップ卒業生等で構成。事業の企画・運営を行う。

#### ● 研修制度

出店前研修、月1回売上報告会、修行制度（1週間、商店街内の繁盛店で体験）等、知識だけでなく現場に即した研修を実施。

#### ● 独立支援制度

約1年の契約期間終了後、市内で独立する場合は、これまで支払ってきた家賃

総額の半額を返戻。加えて、中心市街地の商店街で独立する者については、改装費等の一部を補助する。



チャレンジショップ「CAST（キャスト）」

## 3 実施効果

平成16年、17年の卒業生7名のうち6名が唐人町商店街内の空き店舗に独立開業している。空き店舗が解消されるだけでなく、若い経営者が商店街振興組合に

入会し、商店街の会合や事業に参加・協力してくれることも、組織内に活気が生まれる要因となっている。

## 個店を元気に。一店逸品運動による取組み。

三重県伊賀市

# 伊賀上野地区中心商店街



「七福神商店街」

### 商店街の基本データ

- 伊賀上野地区中心商店街  
(連絡先は上野商工会議所)
- 三重県伊賀市上野丸之内37-2
- 電話:0595-21-0527
- 商店街のタイプ:地域型商店街
- 店舗数:339店

### 利用した助成金等

平成15年～18年度  
伊賀市「一店逸品運動事業」

## 1 実施背景

伊賀上野地区(旧上野市)は、伊賀市の中心市街地にあたり、地域商業の中心となっている。しかし近年の人口減少、高齢化の進展、郊外大型店の進出等、環境変化により空き店舗の増加、中心市街地の空洞化が顕著となってきた。伊賀上野商店会連合会およびそれを構成する18商店街では、これまで様々なイベントを実施してきたが、店舗数の減少により運営側の力が弱まった上、費用の面からもイベントの開催が困難になっていた。こうした現状から脱するため基本に立ち返り、まずは“個店が元気になること”が必要であり、それが商店街が元気になり、

やがて“まち全体”の活性化につながることを考えた。そこで、当時中心市街地活性化に取り組んでいた旧上野市のTMO(上野商工会議所)の協力を受け平成15年度より「一店逸品運動」に取り組むこととなった。



「逸品の店」

## 2 事業概要

伊賀上野一店逸品運動は、単に1つの逸品商品売り込むのではなく、商店主が集まって逸品を開発、発掘する「過程」を重要視し、これまでの“商売のやり方の見直し”や“品揃えの見直し”の機会と捉えている。

まず参加する各商店主が自店の「こだわりのおすすめ商品」を考え、研究会の場で発表する。そして他の商店主が、「消費者の目・異なった業種の目」で意見を出し合い、切磋琢磨することでよりよい逸品を開発・発掘する。また、逸品商品のお披露目イベントとして、10日間の「逸品フェア」を開催する。フェアに向けて、逸品カタログを作成し新聞折込みにより市内消費者に配布する。また、イベントとなると飲食店に集客が片寄りがちであ

るため、全ての参加店を回遊させる仕掛けとして、「逸品スタンプビンゴラリー」や「お店巡りツアー」を実施。「お店巡りツアー」は参加店を3分類した3コースを設け、1店舗あたり10分程度訪問し逸品商品とお店の紹介をするというものである。



「逸品フェアの商品表示」

## 3 実施効果

事業を通して、自店の現状、地域の消費者ニーズについて改めて知ることが出来た。特に、消費者の視点と異業種の視点から自店を評価されたことで、気付かされることが多く改善につなげることができた。この運動に参加したからといって全ての店ですぐに売上げが増加するわけではないが、地域の顧客に受け入れられる逸品の開発、発掘、販売促進、店づくりを繰り返し研究することで、個店の力は高まっていくと思われる。今後も、

事業を継続し商店街の活性化、まち全体の活性化につなげていく予定である。



「お店巡りツアー」

## 観光ミックス事業を展開

山口県萩市

# 萩市田町商店街



「萩おみやげ博物館」

### 商店街の基本データ

- 萩市田町商店街振興組合連合会
- 山口県萩市東田町87
- 電話:0838-26-2201
- 商店街のタイプ:地域型商店街
- 店舗数:約54店
- <http://www.axis.or.jp/~hagitama/>

### 利用した助成金等

平成17年度  
山口県「空き店舗対策事業」

## 1 実施背景

萩市は人口約57,000人の城下町で、「まち全体が美術館」と言われる程、焼き物や名所、旧跡等を目当てに多くの観光客が訪れている。田町商店街はその中心部に位置しているが、観光客の取り込みができていなかったこともあり、平成10年頃から空き店舗が増えるようになった。そこで、空き店舗を活用した事業を行うことを目的に平成14年に、商店街の組合員の有志14名で、「有限会社じーるファクトリー萩」を設立した。まず、観光客を誘致するため空き店舗を買い取り、駐車場を設置した。平成17年には、商店街の正面入り口に空き店舗が発生したのをきっかけに「観光ミックス型商店街」

への移行を目指すこととした。萩という商店街ブランドを確立し、地元の住民だけでなく、観光客を呼び込み、また来街者の滞在時間を増加させることで商店街に賑わいを創出し、活気を取り戻すことを目的に「観光ミックス事業」を推進している。



「萩おみやげ博物館」内部

## 2 事業概要

観光ミックス事業として次の取組みを行っている。

### ●「萩おみやげ博物館」の設置

商店街の正面入り口の空き店舗を活用して設置された。萩市内で製造されている製品のみを扱うことをコンセプトに、地元メーカー 90 社の協力を得て萩の特産品を販売。

### ●「北國堂」の設置

商店街のブランドを開拓しようと、萩焼きのギャラリーショップを創り、萩焼き作家の個展等を開催し、展示販売を行っている。

### ●ワゴン販売台で特産品の販売

商店街の店頭で統一デザインのワゴン販売台を設置し、婦人部が企画した観光客向けの商品販売。

### ●駐車場の設置

平成 14 年に観光客の誘致を目的に商店街に有料駐車場を設置。平成 18 年には市の協力により大型バスも駐車可能な無料駐車場「田町・御成り道駐車場」が設置された。



「萩おみやげ博物館」内部



「北國堂」

## 3 実施効果

「萩おみやげ博物館」「北國堂」は萩の特産物が揃っている店として、観光客に認知され売上げは順調に伸びてきた。みやげ物屋を「博物館」とネーミングすることで、観光客の注目を集めることにな

り来街者が増える結果となった。また、「有限会社じーるファクトリー萩」による事業が話題となり様々なメディアに取り上げられている。

## 定期市「弁天ワッセ」でにぎわいを演出

群馬県前橋市

# 弁天通り商店街



### 商店街の基本データ

- 弁天通り商店街振興組合
- 群馬県前橋市千代田町3-4-7
- 電話:027-231-6751
- 商店街のタイプ:地域型商店街
- 店舗数:約32店
- <http://www.benten-marche.com/>

### 利用した助成金等

平成16年度

群馬県「中心市街地再生実践プラン」(PR冊子の作成)

## 1 実施背景

前橋市は、ここ数年中心市街地から大型店の退店が相次ぎ、核店舗の喪失によって集客力が減少した。

弁天通り商店街は、創業120年以上の老舗が多い歴史ある商店街である。かつては、中心商店街として1日1万人ほどあった通行量が、中心市街地の衰退の影響で1千人を割るまでになってしまった。また、店舗数も最盛期の7割程度まで減っている。

商店街の賑わいを取り戻すため、街の特長を活かした活性化を行なうこととなった。歴史ある商店街であることを強調し、特に、通りの中央にあり440年の歴史を持ち、多くの参拝客が集まる

大蓮寺を活用することとした。また、「月に吠える」「青猫」等の作品で知られる前橋市出身の詩人「萩原朔太郎」をモチーフにした様々な街おこし事業を行っている。



「商店街のアーケード」

## 2 事業概要

### 1. 毎月3日の定期市「弁天ワッセ」

平成16年から、老舗通りの懐かしさや楽しさをアピールし、門前町としての雰囲気を出した定期市「弁天ワッセ」を開催している。かつては大きな賑わいを見せていたものの近年は賑わいを失いつつあった「弁財天の縁日」を、弁天ワッセとしてリニューアルし復活させることで、歴史ある商店街としてのイメージを強調している。

### 2. 「萩原朔太郎」を活かした街おこし

平成18年から、青年部が中心となり「朔太郎コロッケ」「さくたろうそく」など11種類の萩原朔太郎生誕120年のオリジナル記念グッズを企画、開発、販売している。

### 3. 商店街及び地域情報の発信

平成16年に、弁天通りの歴史、地域の情報や老舗の多い弁天通りの店舗を紹介するガイドブック「28+1 弁天老舗通

り」を製作し各店舗で配布している。

また、平成18年には、「NECOMACHI（ねこまち）」という朔太郎グッズを紹介するフリーペーパーを新たに発行した。「NECOMACHI」は、代表作の「青猫」をイメージして全体が構成されており、朔太郎グッズの販売店の情報を発信している。



弁天ワッセ  
「うまいもの市」



フリーペーパー  
「NECOMACHI」

## 3 実施効果

弁天ワッセは、予想以上の大きな賑わいをもたらし約1万人の集客に繋がっている。弁天ワッセの運営には、多くの近隣住民、特に若者が参加している。それをきっかけに商店街と地域の若者の間につながりができ、商店街や商売に興味を持つ若者が増えた。その若者たちの中で特に商売に興味を持った4人が、実際に

空き店舗に出店することになり、現在それぞれギャラリー、喫茶店、美容院、アート工房を出店している。また、イベントによる活性化の効果もあり、弁天通り商店街での出店希望者が増大し、以前はほとんどシャッター通り商店街だったが、現在は空き店舗なしの状態になっている。

# 産直マート、日替わりシェフの店「八島いっぷく亭」を運営

京都府舞鶴市

## 八島商店街



### 商店街の基本データ

- 八島商店街商業協同組合
- 京都府舞鶴市八島四条字浜615番地
- 電話:0773-62-5533
- 商店街のタイプ:近隣型商店街
- 店舗数:約50店

### 利用した助成金等

平成17年度

京都府「意欲的商業者グループ支援事業  
(魅力ある店舗づくり事業)」

## 1 実施背景

舞鶴市の人口は約91,000人で、近年は微減傾向にある。全長300メートルの八島商店街は、三条商店街、七条商店街、大門商店街と共に東舞鶴の中心商店街であり、かつては隆盛を極めたものの、11年前の大型店の東舞鶴駅の反対側への出店、増床や、相次ぐショッピングセンターの郊外出店を契機に、徐々に客足が遠のき空き店舗が増えていった。特に、生鮮三品を取り扱う店が撤退していく中で、近隣型商店街としての存立意義が問われていた。

このような背景のもと、八島商店街では、空き店舗を活用し、安価で新鮮な生鮮商

品を提供する「産直マート」、不用になった衣料品等を中心に委託販売を行う「八島バザールSHOP」、料理好きな主婦や学生が日替わりでランチを提供する「八島いっぷく亭」を運営することにより活性化を図っている。



「産直マート」

## 2 事業概要

### 1. 産直マーケット

空き店舗の活用について舞鶴TMOが企画を立案し、商店街が平成15年から運営を始めたのが、近郊の農業者や漁業者等が委託販売する「産直マーケット」である。「安く良質の商品を豊富に提供する」ことに努めている。固定客が7割以上を占め、主婦以外にも飲食業者が利用し、安定した売上げを維持している。

### 2. 八島バザールSHOP

組合員などが共同で商店街にある店舗を借り上げ、衣料、雑貨、金物などの商品を販売していたのが前身である。現在は、会員登録をした一般の方が持ち込んだ商品を販売しており、フリーマーケットの要素が強いが、婦人、子供衣料、雑貨を中心に男性衣料や各種生活用品も揃えている。

### 3. 日替わりシェフの店「八島いっぶく亭」

平成15年より商店街の「八島おかみさん会」が企画、運営しており、シェフは料理が好きな主婦や学生等が日替りで担当している。メニューは日替わりのランチ一品のみであるが、地物の魚介や自家栽培の新鮮な野菜を使い、他の飲食店とは差別化したランチを提供している。当店の開設には、シェフ達にお客さんを掴んでもらい将来独立して欲しいという想いも込められている。



「八島バザールSHOP」

## 3 実施効果

「産直センター」は、地域住民に十分認識されており、吸引効果により周辺の商店の売上げにも貢献している。また、経営的にも黒字を維持しているが、最近、周辺地域で同様の事業が開始されたこともあり当センターの更なる魅力作りを模索中である。また、「八島いっぶく亭」も集客効果に一役買っている。



「八島いっぶく亭」

# 自然にやさしいまちづくり

神奈川県茅ヶ崎市

## 茅ヶ崎市商店会



「茅ヶ崎リターナブルワイン」

### 商店街の基本データ

- 茅ヶ崎市商店会連合会
- 神奈川県茅ヶ崎市新栄町13-29
- 電話:0467-87-4147
- 商店街のタイプ:広域型商店街
- 店舗数:約1,000店
- <http://www.chigasaki-town.net>

### 利用した助成金等

平成16、17年度  
神奈川県「商店街競争力強化基金助成金」

## 1 実施背景

茅ヶ崎市は東京、横浜への交通の利便性や恵まれた自然環境を背景に急激な都市化が進み、人口は約23万人である。平成11年、大店法の改正前のジャスコ出店を契機に、市内22の商店街からなる商店会連合会、市民団体が反対運動で結束し、茅ヶ崎の街づくりに真剣に取り

組むようになった。そのなかで「エコ・シティ茅ヶ崎をめざします」というコンセプトが定められたことをきっかけに、平成13年から、「茅ヶ崎リターナブルワイン」と「自転車のまち茅ヶ崎」に係る事業を行うことになった。

## 2 事業概要

### 1. 「茅ヶ崎リターナブルワイン」事業

平成13年から、商店会連合会、酒販組合と環境市民団体では、繰り返し使用で

きるリターナブルびんの回収システムを取り入れた「茅ヶ崎リターナブルワイン」事業を推進している。生産メーカーと協

力して、販売、消費、廃棄の全過程で環境に優しいワインを販売している。地元の酒店にびんを返却すると、50円が消費者に払い戻しされるシステムになっている。

## 2. 茅ヶ崎自転車の開発事業

環境にやさしいエコ・シティ茅ヶ崎をめざして、商店会連合会が自転車商組合・慶応大学サイクルK、宮田工業(株)、ほっと茅ヶ崎準備室等と「サイクルライフ研究委員会」を設置し、自転車が利用しやすいまちづくりに取り組んでいる。

- 自転車で利用しやすい商店街を目指し、それぞれの店舗が軒先のスペースを駐輪場として開放している。平成18年現在で17店舗が実施。
- 平成16年に行った市民アンケート結果を基に、高価(約4万円)ではあるが丈夫でメンテナンスの保証が付いた、環境に優しい一生使える自転車を企画、立案、地元の宮田工業(株)が製造し、自転車商組合が販売を行っている。「made in chigasaki 自転車」と名付けられた自転車は、地元の自転車屋で生涯点検が保証され、シリアルナンバーがついている。現在までに380台が販売されている。

## 3. マイバックの推進

現在、毎月5,15,25日にバックを持参する「マイバックデー」を実施している。また、平成17年から、商店や商店街イベントで回収した不要な傘から、障がい者ボランティアグループが「エコ傘マイバック」を作成し、それを商店街が200円で販売している。現在までに合計1,300枚以上が販売されている。



「軒先駐輪場」



「made in chigasaki 自転車」

## 3 実施効果

人とまちのコミュニケーションをとりながらエコロジー活動を継続したことにより茅ヶ崎周辺の商店街の知名度が上がった。その結果、イベント等も市民参加

で行なうようになり、住民と一体になったまちづくりが少しずつではあるが実現している。

## ファサード整備と空き店舗を活用した「絵馬館」

滋賀県犬上郡多賀町

# 多賀門前町商店街



### 商店街の基本データ

- 協同組合多賀門前町共栄会
- 滋賀県犬上郡多賀町230-1
- 電話:0749-48-1811  
(連絡先は多賀町商工会)
- 商店街のタイプ:地域型商店街
- 店舗数:約70店
- <http://www.taga-cci.net/>

### 利用した助成金等

平成12～15年度  
経済産業省「リノベーション補助金」

## 1 実施背景

多賀町の中心市街地は、年間約200万人を超える参拝者が集まる多賀大社と多賀大社前駅を結ぶ門前町として栄えてきた。しかし、多賀大社近くに駐車場ができたため、車の利用が増え、駅から多賀大社への人通りが減少した。また、近隣への大型店の進出によって商店街の活力はさらに低下していった。

商店街の活性化を図るためには、参拝者が商店街を回遊する仕組みが必要であ

ると、平成12年に商店街、町、商工会、地域住民が集まり「多賀中心市街地活性化計画」と「タウンマネジメント構想」をまとめ上げた。様々な取組みを行ったが、そのひとつとして、多賀大社の門前町にふさわしい街並みと魅力ある商業地域を形成するために、通りの名称を「絵馬通り」とし“神様が住まうまち”という統一コンセプトのもと、ファサード整備を行った。

## 2 事業概要

### 1.ファサード整備事業

ファサード整備事業のポイントは、「店の顔と心の整備事業」という位置づけで景観整備だけでなく、同時に各個店の魅力の向上を図ったことにある。一般的なみやげ物屋に喫茶スペースを設けたり、別なみやげ物屋では商品を陶芸品に特化させたりするなどそれぞれの個店で新たな取組みが行われている。その他JAと協力して開発した「そば」を販売するなど新商品を開発し個店の品揃えの充実にも注力している。

また、ファサード整備事業においては、絵馬をシンボルマークとして活かしていくこととし、できるだけ絵馬を建物の一部に表現できるようデザインを創意工夫した。

から四号館まで完成している。一号館はイベント、二号館は滋賀県立大学生のまちづくり活動の拠点、三号館はアーティストの作品展示とコーヒーの提供、四号館は地元作家の作品展示、販売と野菜直売所として利用されており、様々な人々の連携を図ると同時に街の利便性を向上させている。



「ファサードの整備」

### 2.空き店舗を活用した「絵馬館」整備事業

平成10年から、空き店舗を活用して商店街の機能を充実させる事業を行なっている。空き店舗を改装し、「絵馬館」と名づけ活用している。現在までに一号館



「絵馬館」

## 3 実施効果

絵馬館を設置して商店街内に様々な機能を点在させることで、来街者の動線を計画的に伸ばした。その結果、来街者の商店街での平均滞在時間が大幅に伸び、個店の売上高が平均1.2倍になるなど大きな効果がみられた。観光客向けに始まった事業ではあったが、個店の魅力向上

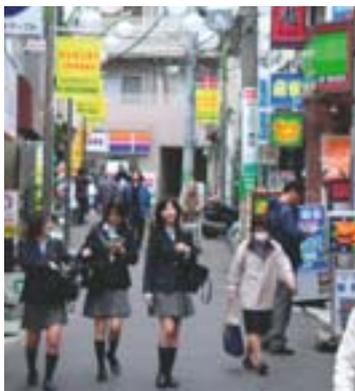
による効果は徐々に地元へ浸透しており、地元向けの売り出しイベント「ナイトバザール」は行列ができるようになった。

今後の課題としては、少子高齢化に対応するためのサポート体制の充実や商店街の若い世代の育成にあると考えている。

## 交番の設置とボランティアパトロールの実施

東京都世田谷区

# 明大前商店街



### 商店街の基本データ

- 明大前商店街振興組合
- 東京都世田谷区松原2-45-1
- 電話:03-3323-8121
- 商店街のタイプ:地域型商店街
- 店舗数:276店

### 利用した助成金等

特になし

## 1 実施背景

明大前商店街では、毎年消費者懇談会を行なっているが、平成11年頃から懇談会で治安に対しての不安の声が多く寄せられるようになった。当時の明大前駅を中心とした松原町は、北沢警察署管内で犯罪件数ワースト1位であったことも理由になっている。

こうしたことから治安の改善を目的に、商店街が中心となって明大前駅の駅前に交番を誘致する運動をはじめたが、隣接

交番との距離基準が理由で交番誘致は実現しなかった。そこで、商店街は民間交番の設置と防犯ボランティアのパトロールを考え、商店街関係者を中心に10名が集まり『明大前商店街振興組合自警会(愛称:明大前ピースメーカーズ)』を発足させた。同時に、警察署長が相談役についてくれるという協力も得た。平成13年、日本初のボランティアによる防犯パトロール隊が誕生した。

## 2 事業概要

### 1. 明大前ピースメーカーズの概要

明大前ピースメーカーズは、自警会規則や行動規範を作り、規律による隊員の意識の向上を図っている。運営費用は、組合会費の他に、行政の補助金、商店街のバザールの収益、企業の協賛金、学校や地域住民からの寄付で賄われている。

#### ●明大前ピースメーカーズの組織

隊員は現在44名。商店主、後継者等の商店街関係者28人を中心に、会社員、フリーター、学生、空手道場生など様々な人が隊員になっている。

#### ●パトロール体制

小学生の登下校時、会社員、大学生の帰宅時、計3回パトロールを行なっている。隊員は1週間に最低1回、そして最大でも3回までの参加という取り決めでパトロールを実施する。

#### ●明大前ピースメーカーズボックス(民間交番)

隊員の詰所を設置し、月曜日から土曜日の午前9時から午後5時までパトロールとは別に隊員が常駐している。駅前立地しており、パトロール出勤前後のミーティングに活用するとともに、道案内にも対応している。



「明大前ピースメーカーズボックス」

## 3 実施効果

全国で初めての民間交番ということもあり、また効果も高かったことで各マスコミに大きく取り上げられ「安全な街」という認知度が全国的に広がった。その影響で、地方から上京してくる学生や新社会人が居住地として明大前を選ぶこともあり、人口が増加している。また、スーパーマーケット等生鮮三品を扱う店を中心に個店の売上げが増加している。商店街が地域住民に信頼されるようになった効果は大きい。



「明大前ピースメーカーズ」

## 商店街の連携による組織の再編

新潟県上越市

# 上越本町三・四・五丁目商店街



### 商店街の基本データ

- 上越本町三・四・五丁目商店街振興組合連合会
- 新潟県上越市本町5-3-28
- 電話:025-524-4761
- 商店街のタイプ:地域型商店街
- 店舗数:約250店

### 利用した助成金等

特になし

## 1 実施背景

上越本町の中心商店街は、周辺地域の人口の減少、大型店の郊外への出店、消費人口の流出により、空き店舗が増えている。特に、ここ数年は中心部における来街者の駐車違反の取締りが厳しくなり、約350メートルある商店街への車での来街が難しくなったことから、ますます駐車場を完備した大型店に買い物を奪われている状態である。

このような厳しい状況の中、問題意識を共有し、あわせて3つの商店街の連携と、意思疎通の円滑化の重要性が明らかになったことから、平成17年に「上越本町三・四・五丁目商店街振興組合連合会」を組織して取組みを行うこととなった。

それと同時に3つの商店街組織の連携がスムーズに行われるように、連合会における最高決定機関「リーダー会議」を創設することになった。



「3丁目周辺の町並み」

## 2 事業概要

「リーダー会議」を創設することにより、よりよい商店街を目指し、それぞれの商店街が抱える課題について、共通認識を持って、商店街活動に取り組んでいくこととなった。各商店街の「駐車場委員会」「販促委員会」「総務委員会」「女性部」（桜SUN・ロータス4・華小町）をそれぞれ横割りの共同部に改編し、情報の一元化ができる風通しの良い組織体系を確立した。

「リーダー会議」の構成は3商店街の理事長3人と4委員会の代表12人、四丁目にある大型店「大和上越店」の店長と商店街の活性化を目指しフリーペーパー等を製作する若手商店主グループ「本町Styleを創る会」の代表が構成員となり、

計17名で運営されている。組織再編の結果、販促活動として「観桜会」「七夕まつり」「花ロード」などのイベントを共同で行うようになっている。



「共同イベント・七夕まつり」

## 3 実施効果

各商店街が共通の認識を持ち、情報の共有化ができるようになったことにより、商店街活動が円滑に進められるようになっている。

これまで各商店街が単独で行っていたイベントを3つの商店街が共同で実施することにより、相乗効果が生まれ来街者も増えることとなった。平成18年で第8回を迎えた、城下町高田「花ロード」には約5万人の人が訪れるようになった。

今後も相互の協力体制を維持し、各活動の中に活かしていきたいと考えている。



「花ロード開催案内」

## 子育て支援施設「遊モア」との協働による取組み

愛知県名古屋市北区

# 柳原通商店街



### 商店街の基本データ

- 柳原通商店街振興組合
- 愛知県名古屋市北区柳原4-2-3
- 電話:052-915-5550  
(連絡先はNPO法人まめっこ)
- 商店街のタイプ:近隣型商店街
- 店舗数:85店

### 利用した助成金等

平成15～17年度  
経済産業省「コミュニティ施設活用事業  
(保育サービス施設)」

## 1 実施背景

柳原商店街では、近年店主の高齢化の影響もあって空き店舗が急増し対策を迫られていた。

そのような中、平成15年に子育てを支援するNPO法人から柳原通商店街の空き店舗で活動を行いたいとの申し出を受けた。柳原通商店街では、空き店舗がひ

とつでも減るならと快諾し、また、話が進むにつれて、商店街側も子育てに参加、協力する必要があると考え、NPOに協働の申し出を行なった。それをきっかけに、柳原通商店街とNPO法人の協力体制による子育て支援施設「遊モア」が開設された。

## 2 事業概要

### 1. 子育て支援施設「遊モア」の概要

遊モアでは、親子が遊べる場の提供である「広場事業」、時間単位で6ヶ月～5歳児を保育する「一時保育事業」、2歳児のための預かり保育教室「モアキッズ」を実施している。運営体制は、有給スタッフが12名登録されており、交代で常時2～3名が勤務している。他にボランティアスタッフ6名を活用している。

### 2. 柳原通商店街と遊モアの協力体制

#### ● 商店街と子育て支援施設の交流

商店街の会員等が、保護者向けに小売店の専門知識を活かした講座等を遊モアで開講している。また、商店街のイベントで、NPOのメンバーがスタッフとして参加している。

#### ● 「人にやさしい街マップ」の制作

商店街とNPOが協力して街マップの作成を行なった。表面は柳原周辺の街マップ、裏面は柳原通商店街の商店街マップとなっている。「人にやさしい街マップ」の特長は、小さな子供がいるお母さんの視点でマップが作られていることである。

おもつ替えコーナーや授乳コーナーがある店舗、施設の位置、歩道のどこにベビーカーの障害となる段差があるかなど細かく記載されている。



「人にやさしい街マップ」



「遊モア」の施設内部

## 3 実施効果

遊モアは、愛知県で最初の子育て支援施設としてマスコミに注目されたこと、NPOの取組みが効果的だったことにより商店街に多くの親子連れが訪れるようになった。

また、「人にやさしい街マップ」の制作が、街の魅力の再発見・見直しのきっかけとなり、今後も「人にやさしい」をコンセプトに街づくりを行なっていく予定である。

## 「商店街おたすけ隊」によるイベント支援

青森県十和田市

# 十和田市中央商店街



### 商店街の基本データ

- 十和田市中央商店街振興組合
- 青森県十和田市稲生町16-42
- 電話:0176-25-6885
- 商店街のタイプ:近隣型商店街
- 店舗数:31店
- <http://www.towadachuo.com/>

### 利用した助成金等

十和田市「にぎわい特区協議会イベント補助金」

## 1 実施背景

十和田市中心部の商店街は、かつて近隣町村から多くの人々を集めていたが、平成6年をピークに衰退が始まった。

空洞化の背景には、平成5年に近隣に大型ショッピングセンターが進出し、次いでホームセンターや家電量販店等の周辺地区への出店が続いたことがあげられる。その後、中心部の核であった地元総合スーパーやデパートは撤退、客足は徐々に遠のき、空き店舗が目立つようになって

てきた。十和田市中央商店街では、31の店舗が営業しているのに対して12の空き店舗・空地がある。

このようなことから平成17年、十和田市が、街区一体で賑わいを取り戻すために「中心市街地にぎわい特区」の申請を行い認定された。十和田市中央商店街は地域に活気を取り戻すべく、特区の認定を活かしながら、地域の人々と連携を図りイベント事業に取り組むことになった。

## 2 事業概要

### 「とわだストリートフェスタ」 「商店街おたすけ隊」の概要

平成17年に地区一体が「にぎわい特区」として認定されたことにより、地域参加型のまちづくり計画に基づく交通規制の実施が可能になり、路上空間を有効利用して、多彩なイベントが積極的に展開されている。店主の高齢化や人材不足を補完するため、地域NPO、子供支援センター、JA、学生などの協力者が市民ボランティア「商店街おたすけ隊」を結成して、オープンカフェ、フリーマーケット、産直野菜販売、コンサート等の路上イベントを企画・開催している。

平成17年度には「こどもストリートフェスタ」、18年度には「駒っ子馬車にのろう」「ちびっこカラオケ大会」「忍者修業道場」「BONおどりフェスタ」「秋の

ふれあい味祭り」「サンタが街にやってくる」など、沢山のイベントが実施されている。イベントの内容は、街の将来の活性化を期待して、子供向けが多く、家族が揃って楽しめるよう配慮している。



ストリートフェスタ（忍者修行道場）

## 3 実施効果

「とわだストリートフェスタ」の期間中には、多くの市民が商店街を訪れるようになった。また、イベントへの取組みにより、組合員の結束が強化された。さらに、メディアに注目され新聞、テレビなどで紹介されることにより、十和田市中央商店街の知名度は高まった。平成18年度は、商店街に賑わいを戻し、市民に店の人の顔を知ってもらうことを目標としていたが、19年度以降は、各商店にとってもメリットを感じてもらうことを課

題としている。そのため、一店逸品運動などへの着手を考えている。



ストリートフェスタ（フリーマーケット）

## 若者に人気の「おびさんマルシェ」を開催

高知県高知市

# おびさんロード商店街



### 商店街の基本データ

- おびさんロード商店街振興組合
- 高知県高知市帯屋町2-1-3
- 電話、FAX:088-871-6527
- 商店街のタイプ:地域型商店街
- 店舗数:120店
- <http://www.kochikc.co.jp/obisun/index.html>

### 利用した助成金等

公益信託 高知市まちづくりファンド  
(まちづくりを行う市民団体に助成される基金制度)

## 1 実施背景

おびさんロード商店街は、数多くのイベント事業を展開して、集客を図るとともに、商店街の認知度を高めてきた。継続実施しているイベントの1つに街路を利用した「フリーマーケット」がある。これは公園などで開かれることが多かったフリーマーケットを商店街を車両通行止めにして行うというもので、平成7年4月から毎月2回ペースで開催している。事前に申し込みば家庭の不用品や古着等を販売する一般の方も出店できるようになっている。当初は珍しさもあり毎回多くの人で賑わっていたが、最近では、各地

で同様のイベントが開催され面白みが薄れてきた。

そこで従来のフリーマーケットとは別に、街路景観を整備してつくりあげた商店街の南欧風のイメージに合った、おしゃれなマーケットの開催が検討された。ヨーロッパの蚤の市を意識し、こだわりの“食とアート”に特化した市(マルシェ)が発案され、平成17年1月に青年部の有志、地元学生、まちづくりに興味のある住民等からなる実行委員会が発足し、同年3月に第1回「おびさんマルシェ」が開催された。

## 2 事業概要

「おびさんマルシェ」は、年間5回、正月イベントのある1月を除く奇数月に開催している。

“食とアート”にこだわり、「高知の美味しいもの」、「高知発のアート」を集め発信していくという趣旨の下、野菜のソムリエが選んだ地場野菜の店、オープンカフェ、手づくりアクセサリ、自分でデザインした洋服、絵画、ポストカードなどを販売する店の出店、また、音楽やダンスなど各種パフォーマンスも行われる。

商店街の個店に対しても、店舗での営業の他に、ブースへの出店を薦めている。実際、飲食店や陶器店、雑貨店などが参加し売上げをあげている。

出店条件として、各自でテントやテーブルを用意することとなっているが、路面にシートを敷いて商品を陳列すること

は禁止し、必ずテーブルや台に載せるなど、おびさんロードの雰囲気合ったおしゃれな店づくりを行ってもらおうとしている。

実行委員会が事前に出店希望者と面接を行い、こうした趣旨や条件を理解し賛同してもらう。この段階で、意図する出店者に絞込むことで、「おびさんマルシェ」の統一イメージを維持している。



「おびさんマルシェ」

## 3 実施効果

「おびさんマルシェ」を開催している日曜日は、通常の日曜日に比べ、商店街に10倍以上の集客がある。マルシェを目的に来街する10代、20代の若者が多いが、昼間は中心街で買い物をした帰りに、わざわざ「おびさんマルシェ」を通っていく主婦層、家族連れの方もあり、路地裏通りへの回遊性という点でも効果をあげている。

店舗での営業の他に当日道路に出店している個店にとっては、売上増、新規顧客獲得にもつながっている。今後も引き

続き、若者が集まるおしゃれな「おびさんマルシェ」を維持するとともに、この集客を商店街の個店の集客、通常期の商店街の来街者増につなげていきたい。



「おびさんマルシェ」

# 商店街のガイドシステムを構築

茨城県水戸市

## 泉町二丁目商店街



### 商店街の基本データ

- 泉町二丁目商店街振興組合
- 茨城県水戸市泉町2-3-5
- 電話:029-233-7890
- 商店街のタイプ:地域型商店街
- 店舗数:48店
- <http://www.izumi2.com/pc/>

### 利用した助成金等

平成17～18年  
水戸市「商店街リフレッシュ事業助成金」

## 1 実施背景

ここ数年、水戸市の中心商店街は郊外への大型店の出店や、中心地からの百貨店の撤退など衰退の兆しがでてきていた。

そのような中、泉町二丁目商店街振興組合の理事長は、今までのように市外から集客することだけではなく、地域住民をターゲットにした活性化策を実施することで商店街の復興を模索していた。企画・広報企業の経営者でありタウンマネージメントの知識を持つ知人に相談を持ちかけたところ、地域住民との関係を深

くするためには、まず商店街の個店を再認識してもらうことが必要とアドバイスを受けた。これをきっかけに、共同で商店街活性化に資する取組みを行うことになり、二人三脚で、市内住民の商店街への再認識を目指す『商店街ガイドシステム』を構築していくこととなった。また、平成18年3月に商店街の隣接地に百貨店が出店したため、百貨店から商店街へ消費者を誘引するよう、百貨店にはない個店の特徴を打ち出すこととした。

## 2 事業概要

### 『商店街ガイドシステム』

#### ● 3媒体を活用した商店街の紹介

商店街ガイドシステムでは、商店街HP、携帯サイト、ガイドブック（冊子及びチラシ）を活用して商店街の個店情報を紹介している。HP以外にも媒体を2つ加えているのは、若者向けには携帯サイト、高齢者向けにはガイドブックと、媒体を使い分けてもらうことを目的としている。

#### ● 商店街の特徴を紹介する

##### 『ひとつと』『ひとつしな』

扱っている商品の特徴や働いている店主、従業員を紹介することで、消費者に商店街の個店に興味を持ってもらい、また気軽に入店してもらえよう敷居を低くすることが必要と考え、HP上に『ひとつと』、『ひとつしな』というコーナーを設け

た。『ひとつと』では、商店街の店主・従業員に焦点を当て、商店街に関わる様々な人を紹介している。また、『ひとつしな』には、店舗の逸品を紹介するとともに、割引券を発行するなど集客のためのコーナーになっている。



「商店街のホームページ」

## 3 実施効果

商店街ガイドシステムによって、新規顧客の開拓につながり、個店の売上げがアップした。また、会員がHPによるプロモーション活動に積極的になり、自店の情報の提供頻度が多くなっている。

週に1回HPの更新を行っているため情報の鮮度が高く、商店街イベント情報も多く盛り込んでいるため消費者に飽きさせないHP作りができており、平成17年には多い時で月に500件だったアクセス件数が、現在では月に10,000件を超えることもある。

今後は、京成百貨店との間でイベント

や広告宣伝などにおいて協力体制を構築し、集客力の向上を図る予定である。



「商店街ガイドブック」

# ポイントカード事業「タメ点カード長田」による取組み

兵庫県神戸市長田区

## 長田神社前商店街



### 商店街の基本データ

- 長田神社前商店街振興組合
- 兵庫県神戸市長田区長田町1-3-1
- 電話:078-691-2914
- 商店街のタイプ:地域型商店街
- 店舗数:約93店
- <http://www.tameten.jp>

### 利用した助成金等

平成18年度 兵庫県「商店街地域連携推進事業」

## 1 実施背景

長田神社前商店街のある地域は、長らく人口の減少、高齢化が問題になっていたが、震災後のマンション等の建築により新規住民が増え始め、新しいコミュニケーションの必要性がでてきている。加えて平成11年に商店街に隣接するダイエーがポイントカードを導入することになったことから商店街の客足を奪われるとの危機感が生まれた。そこで、40年以上行なってきた歴史のあるシール事業を、新しい住民の更なる囲い込みのため、平成13年にポイントカード事業「タメ点カード長田」にリニューアルした。



「長田神社前商店街」

## 2 事業概要

### ポイントカード事業「タメ点カード長田」

ポイントカード事業は平成12年から「長田中央小売市場協同組合」とともに取り組み始め「地域住民との協調と連携」をコンセプトに、平成13年4月に事業をスタートした。

100円の買物で1ポイント貯まり、120ポイントで100円分の金券としてそのまま使える。また、100円に満たない端数が1年間自動的に貯まり、そのポイント分の金額を、両組合に登録されている地元の15団体（長田婦人会・長田災害ボランティア基金・長田小学校PTA等）から選択して寄付をすることができる。一般的なポイントカードの場合は、端数は切り捨てられることが多いが、「タメ点カード長田」は、その端数を有効活用できるシステムになっている。

また、それに加え、地域と連携する試

みとして近隣のタクシー会社を利用するとポイントが貯まるようになっており、加盟しているタクシー会社の売上げ増に結びついている。また、歯医者を利用するごとにポイントが貯まるシステムにもなっている。



「タメ点カード入会案内」

## 3 実施効果

「タメ点カード長田」のスタート当初は、1,000枚～2,000枚の発行を想定していたが、カードの製造が間に合わないほど、利用者が増え続け、現在は1万5千枚以上が発行されており、商店街のカード事業における成功例と評価されている。

このカードにより、各個店の得意先の売上げデータが分析できるので、DM展開等の販売促進にも活用でき、個店の売上げアップに貢献している。又、地域との連携（近隣のタクシー会社、歯医者等

の加盟）も行なわれており、これが、商店街と地域連携の仕組みづくりとして評価され、平成18年に兵庫県が商店街等活性化に向けた取組みを表彰するために創設した「まちづくり連携商業活性化賞」を受賞した。

今後も商圈内に住む4万人の地域住民に対し、「タメ点カード長田」のイベント要素を広げることにより、更なる会員獲得へ向けた取組みを行うことを考えている。

平成19年3月発行

**全国商店街振興組合連合会**

〒104-0041 東京都中央区新富1丁目9番1号  
新富191ビル7F

tel: (03) 3553-9300

fax: (03) 3553-9303

<http://www.syoutengai.or.jp/>

